

## 会 議 記 録

高松市附属機関等の設置、運営に関する要綱の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	平成29年度第2回たかまつ創生総合戦略推進懇談会
開 催 日 時	平成29年8月28日（月）18時30分～20時10分
開 催 場 所	高松市役所3階 32会議室
議 題	(1)地方創生関連交付金について (2)たかまつ創生総合戦略に関する効果検証について (3)その他
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上 記 理 由	
出 席 委 員 (12名)	佃会長、野田副会長、石田委員、糸井委員、坂口委員、鈴木委員、中橋委員、藤田委員、榎田委員、三井委員、三宅委員、柳委員
傍 聴 者	1人    (定員10人)
担当課及び 連絡先	政策課 839-2135

### 会議の経過及び結果

#### **(1) 地方創生関連交付金について**

事務局から、地方創生関連交付金に係る交付対象事業についての効果検証方法を説明した。その後、各委員に発言を求め、効果検証を実施した。

#### 主な意見

#### **交付対象事業No. 1 :**

#### **まちなかアートで奏でる地方創生推進事業**

(会長)

事前に聴取した意見も含め、懇談会の意見として、本事業が総合戦略の KPI 達成に有効であったとの評価としてよろしいか。

(各委員)

了承。

**交付対象事業No.2 :**

**健康をテーマに人が集まり、企業が集まる！地域再生のコア  
となる「コミュニティ・レストラン&健康広場」事業**

(会長)

レストランのオープンが遅れた原因は何か。

(事務局)

資金調達ができなかったことが原因であった。

(委員)

レストランの計画について、全く知らなかったが、本当に後2か月でオープンするのか。

(事務局)

現在、H29年10月末オープンに向けて必要な契約や工事の準備等を進めている。

(委員)

まちなか居住について、色々と制度を刷新していることは承知しているが、それだけでは、まちなか居住が難しい実態がある。もう少し体系的に、具体的な施策や方向性を作っていくべきではないか。

(委員)

経済産業省で、レストランの整備を支援している。

(委員)

まちなかには、子育て世代もいる。子どもの孤食が問題になっている。核家族や転勤族など、つながりのない中で育児をしている世帯も多いので、食でつながるコミュニティ・レストランの必要性は高いと思う。ぜひ、利用しやすいリーズナブルな価格帯で運営してほしい。

また、市民が、レストランができるまでのプロセスに関わることが大事だと思う。どんな場が良いか、どんなメニュー

が良いかを聞く機会を設けたり、オープンまでのプロセスを SNS などで見える化してほしい。

この事業を成功させるためには、高松市全体でバックアップできるような仕掛けづくりが必要である。

(委員)

レストランが今秋にできることは、私自身も知らなかった。会員数 2,000 人に向けて、どのような PR を考えているのか。すでに考えがないと厳しいと思う。

(事務局)

現在、事業者が個人会員のほか、法人会員の獲得に向け、一人一人に声をかけるような形で地元の企業等に働きかけをしている。

(委員)

商店街で事業をしているが、この話が伝わっていない。もっと会員獲得のためのリリースがあるべき。振興組合の誰が当事者なのか、何も見えてこない。もっと見える化できないか。

(事務局)

コミュニティ・レストランができていないため、現在十分な広報ができていない状況である。今後、レストランや医療モールの開設に合わせ、一体的に広報し会員獲得を強化していく予定である。

(委員)

事業のランニングコスト部分については、今後補助するのか。

また、ハード面が整備されただけでは、コミュニティはつくれないと考える。どのようにコミュニティをつくっていくのか。

(事務局)

ランニングコストについては、補助する予定はない。

コミュニティについては、健康広場の会員をはじめ、コミ

ユニティの活動の場として、情報提供し、様々な活用を進めていくようにしたい。

(委員)

資金計画面で問題が解決していないのであれば、相談してほしい。

(会長)

健康広場以外の事業の進捗はどうか。

(事務局)

医農連携による健康メニュー開発事業については、いのちのスープ等を開発しており、レストランで提供する予定である。

まちなか CCRC 調査・報告事業とまちなかループバス再編検討事業については、報告書は作成されており、補足資料に報告書の一部抜粋を添付している。

(委員)

健康広場の現在の会員数は何人か。

(事務局)

8月20日時点で会員数は147人である。

(委員)

会員の年齢構成は。

(事務局)

平均年齢は67歳で、50歳代から80歳の方が多い。

(委員)

有効でないと判断した場合、どうなるのか。

(事務局)

有効でないという評価であっても、即交付金の返還にはならない。国への報告は、懇談会の評価のほか、改善に向けた取組等を記載し、事業の有効性について、補強していくようになる。

(委員)

レストランの開設の遅れが KPI を下げている要因になって

いるが、事業自体は非常に良いと思う。有効にして、委員からの意見を付帯して、国へ報告してもらおうのでどうか。

(事務局)

皆様からの意見を反映し、事業を改善していく。結果については、真摯に受け止めたいと思うので、遠慮なく御判断いただきたい。

なお、今回の効果検証では、総合戦略の KPI に貢献するものかどうかという視点で評価いただきたい。

(会長)

総合的にどう判断するかということだが、どうでしょうか。

(委員)

レストランがオープンしておらず KPI の数値が出てない状況では、有効であったかどうか判断できない。事業の計画自体に対する反対意見はないので、有効の可能性があるので、評価してもよいか。

(会長)

それも一つの判断である。

(委員)

オープン後、どれだけの人が来て、どれだけ継続できるかが課題である。まちなかアートと連携するなどアイデアが必要で、良いコンサルタントをつけることも必要ではないか。

(副会長)

住民に利用してもらうには、地域住民をいかに巻き込んでいくかが重要になる。この事業は、地域住民の意向を元に企画されたものなのか。

(事務局)

丸亀町商店街として、まちなかを活性化させていきたいということで企画している。

(委員)

補足資料によると、丸亀町は「人がいきいきと安心して暮

らせる老後のパラダイス」を目標に、「衣・食・住」のまちづくりを構築しようとしている。レストランは、総合的な開発の一部であり、KPI にしているレストランだけでこの事業が成り立つとは思えない。

(事務局)

今回の KPI の指標であるレストランをもって、すべての衣・食・住の仕組みが構築できるわけではないが、事業の成果を客観的に測る指標が必要なため、KPI を置いている。

(会長)

色々な意見があるが、懇談会としての結論を出す必要がある。

本事業が、総合戦略の KPI 達成に有効であったと評価する方は、挙手をお願いします。

(各委員)

(12 名中 7 名の委員が挙手。)

(会長)

有効と評価する方が多いので、本事業が、総合戦略の KPI 達成に有効であったとする。

なお、本日の各委員の意見については、事業者に伝え、事業を見直していただきたい。

(事務局)

事業者には、本日の意見を伝えたい。

(委員)

効果検証の結果について、満場一致ではないことを議事録に残しておいてほしい。

(会長)

本事業については引き続き進捗を見ていく必要があるため、次年度の懇談会においても報告してほしい。

## **(2) たかまつ創生総合戦略に関する効果検証について**

事務局から、PDCA サイクルによるたかまつ創生総合戦略の効果的・効率的な推進を図るため、同戦略の効果検証方法等について説明し、発言を求めた。

※総合戦略に搭載する 47 施策のうち、H28 年度の KPI の数値が H28 年度の目標値を下回った 25 施策について効果検証を行う。それ以外の施策については、懇談会委員が効果検証を希望する事業等を事前に確認したが、特に意見はなかったため、今回は対象外とする旨報告し、了承を得た。

### **主な意見**

#### **(施策名：観光資源の活用と創出)**

(会長)

KPI が目標値を下回った理由は何か。

(観光交流課)

KPI は、香川県観光客動態調査の「香川県への再来訪意向」における「ぜひ来たい」と回答した人の割合を置いている。H27 年度に調査項目が変更・増加され、項目追加された「来たいと思う」に回答が分散されたことが原因と考える。

#### **(施策名：MICE (マイス) 誘致促進)**

(観光交流課)

委員からの事前の質問にある「四国あるいは香川県にしかない資源での国際会議の定期開催を補助金も含めた長期的な観点からのスケジュール化等の取組状況」について回答。

昨年度末に MICE 振興戦略計画を策定し、県内随一の都市機能が集積した「高松 T ゾーン」の P R と、補助金について周知し誘致活動を行っている。国際会議は、2～3 年前に開催地が決定することが多いため、今後整備される屋島山上拠点施設や県立体育館についても、大きな P R 要素として誘致につ

なげていきたい。

なお、スケジュールについては、十分詰めれていない状況である。

### **(施策名：生活習慣病（がん・循環器疾患・糖尿病等）対策の推進)**

(委員)

KPI の達成率が悪いが、別添 2-2 に記載している KPI を上昇させるための取組だけでは、改善は難しいと思われる。このほかに、改善に向けた取組は考えているか。

(保健センター)

KPI の悪化の原因は、H28 年度から、国の報告における対象者の算出方法を変更したことが大きい。また、マイナンバーを利用した自己負担金免除申請が必要になり、その申請窓口が保健センターと市民税課の 2 カ所しかなかったことも原因と考えられる。そのため、H29 年度からは、申請窓口を新たに総合センター・支所・出張所、各保健ステーションに増やし、受診しやすい環境を整えている。

### **(施策名：救急活動の推進)**

(会長)

KPI が目標値を下回っているが、補足の説明はあるか。

(消防防災課)

KPI を上昇させるために、救急救命士の技術向上を更に図るほか、市民による救命処置の重要性を P R するため、救命講習等普及啓発を継続してまいりたい。

### **(施策名：タイムリーな情報発信による回遊促進)**

(委員)

H28 年度と H31 年度の目標値が同じである理由を教えてください。

(まちづくり企画課)

第 2 期中心市街地活性化基本計画において、「中央商店街における歩行者通行量」の目標値を 141,000 人とし、中心市街地の活性化を進めていることから、本計画に合わせた目標値としている。

### **(施策名：コミュニティ活動の支援)**

(会長)

地域コミュニティによって温度差が大きいと思うので、地域コミュニティの現状を調査することも必要ではないか。

(コミュニティ推進課)

H27 年度にこれまでの 10 年間の地域コミュニティ施策の成果を検証し、その結果に基づき、組織運営体制や財政面などにおける施策の改善・改革に着手しているところである。

例えば、新たな地域コミュニティ施策として、「まちづくり交付金の課題解決応援加算」など、地域コミュニティプランの見直しや自主財源の調達へのインセンティブ制度や、市職員のマンパワー支援・意識改革のための「地域担当協働推進員制度」の見直しなどを行ってきたところである。

また今後も、同じ指標で客観的に地域コミュニティ協議会の実態を確認できるよう「コミュニティカルテ」を活用するなど、地域の特性に応じた支援に努めてまいりたい。

(会長)

ぜひ、広報などを通じて、市民が地域コミュニティに興味をもてるよう、努めてほしい。

### **(3) その他について**

(事務局)

・今年度のたかまつ創生総合戦略推進懇談会は、今回で終了とする。懇談会の意見等は、今後の事業等の見直しを検討する際の参考とする。

・今年度末をもって、委員の任期が満了となることを説明。

以上をもって、本日の会議を終了することとした。

(閉会)